

調 査 ・ 研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名： きずな

報告者： 林 高正

実施場所： 国立オリンピック記念青少年総合センター棟 416「平成 29 年度 自治会・町内会講座」

実施日： 平成 30 年 1 月 24 日

■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）

全国的に自治会や町内会に入会する人も減っているが、お世話をする役員のなり手不足は深刻です。そうした中で、あしたの日本を創る協会主催の、「平成 29 年度自治会・町内会講座」が開催され、【①課題、②活性化策、③悩み思いを語ろう】という内容であったので、本市も同様な悩みを抱えており、課題解決のヒントが見つければとの思いから受講させて頂いた。

■参考とすべき事項

かなり以前から、都市部はやがて高齢化社会が顕著となりこれまでの仕組みが通用しなくなるのではと指摘されてきました。②活性化策の事例発表は、千葉市美浜区幸町 1 丁目町内会（18 自治会で、3400 世帯、人口 8000 人が暮らす 50 年前に造成された団地）だったのですが、町の中心部では 42%超の高齢化率となっており、「安心サポートの会（高齢者の生活支援）」を平成 22 年 4 月、地域の人達が互いに助け合い、安心して暮らせる町を作ろうと立ち上げ活動されています。平成 17 年頃は、高齢化率約 29%だったそうですが、この頃から助け合いの活動を求める声が上がりはじめたそうです。安心サポートの会は自治会のコミュニティ委員会に属するのですが、コミュニティ委員会は自治会役員 0B や地域活動のリーダーで構成されており、タバコのポイ捨て禁止運動や駅周辺の掃除の会、公園清掃の会など多くの実践の会があり、62 名の委員が在籍しています。活動の仕組みは、入会金 1000 円で会員となり、利用料 1 時間 500 円で簡単な掃除、日曜大工、買い物代行等のサービスを受けられます。利用申し込みは、専用の携帯電話に電話するだけでサポーターに伝わる仕組みとなっています。携帯電話は決められたローテーションで受付業務をする移動事務所といえます。利用料の内 100 円は協力金として安心サポートの会に寄付されます。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

③悩み思いを語ろうの事例は、埼玉県川口市芝園団地自治会の事例だったのですが、4800 人が暮らす大規模団地ですが、その半数以上が外国人と言う本市では考えられないもので、残念ながら参考とはならなかった。①課題で講演して下さった長谷川幸介さんのお話は、自治会・町内会を 4 つの縁で表現されたのですが、これまでは田舎型と言えるもので、血縁、地縁（地域）、職縁、有縁（金銭）による社会だったと。しかし、現代社会では地縁が薄らいできていることが大問題だと指摘されました。そこで、会社と家庭の往復だけで人間としてのロマンがないことに気づいた人たちが、NPO などの組織を立ち上げ、職縁と有縁を核とした協働に取り組み始めた事例が②と③だと仰る訳で、支縁社会と表現されました。

今回は都市部中心の話題だったと思いますが、本市でも活用できる事例は幸町 1 丁目のコミュニティ委員会の活動だと思います。大規模団地と言う我々には想像できない環境での活動ですが、定期的にアンケートを実施したことで活動が認知され、利用が増加したそうです。「分かっているだろう」と安易に判断せず、住民が求めているものは何かをアンケートから読み解くことの大切さが分かりました。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名：きずな

報告者： 徳永泰臣

実施場所：オリンピック記念青少年総合センター 自治会・町内会講座	実施日：平成30年1月24日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>○自治会・町内会活動の活性化についての視察研修</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>○ 元滋賀大学教授の長谷川 幸介さんによる「自治会・町内会の課題と求められること」と題して講座があり、65歳以上が「高齢者」と言われたのは昭和31年のことで、政府はその当時の女性の平均寿命を基準にしていた。現在もそれを引き続き使っているが、矛盾点もでてきている。そして徘徊と散歩の「間」で社会が散歩と呼べる地域を作る事が大切で、それによって誇り高い人生を送れるかどうかが決まってくる。</p> <p>○ 人間の「幸せ装置」(社会)は大きく変化し続けた。哺乳類、特に人間は未熟なまま生まれてくる。そのため人類が編み出した幸せ法則①つながる②生かす事で生きてこられた。</p> <p>○ 幸せ装置(社会)は人とのつながり、頭を使い変えていく事で、地球で住む事を可能にしてきた。</p> <p>○ 社会は「4つの縁」から出来上がっている。まず血縁で夫婦など二人の世界はすぐに一人になる、一人暮らしは怖くはないが、独りぼっちが怖いのである。そして地縁、友縁、職縁である。</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>これから地域社会は、どんな「つながり文化」を創造するかであり、たまり場は「人生のプラットホーム」で、対立・競争からwin-winの関係で能力を発揮しないと退廃してしまう。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調 査・研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名： きずな

報告者： 五島 誠

実施場所：オリンピック記念青少年センター

実施日：2018年1月24日

■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）

平成29年度自治会・町内会会議
自治会・町内会活動の活性化について

■参考とすべき事項

- ・4つの縁（血縁、地縁、友縁、職縁）から出来上がっているセーフティネットに綻びがきている社会変化の構造。その中で自治会は地縁に当たるわけであるが、この網をしっかりと整備していかないといけない。
- ・特に地縁社会に友縁（アソシエーション）がしっかりと関わることで自治会・町内会がプラットホームの性質を帯び、停滞や閉塞感のある自治会・町内会が活性化してくる。
- ・町内会長もキャリア、お母さんもキャリアの一つという認識で以て地域社会で活躍していく方策を考えていく。
- ・自治会の負担を軽減する仕組みの一つに自治会の外側に有志の組織を作り、まちづくり実行部隊化していく事も考えられる。役員の疲弊などを防ぐ。
- ・住民のニーズを探り、それに沿った活動を自分たちでやっていく。
- ・大学生が自治会活動をサポートする事例。外部の方のサポートを受ける事で自治会が活性化した。そのためのしつこいくらいの外部へのコンタクト。活動が変化したことで今まで参加したことない人たちが関わる契機に。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

・合併後定着化してきた自治振興区ならびに自治会制度であるが、実態としては担い手不足や高齢化、若年層の自治会離れなどや、事務作業の増加や行事疲れなどに見られるように閉塞感や停滞化があるように感じる。特に現役世代の負担感は様々なところで耳にする話である。その中で何かヒントをつかめないかと参加した講座であったが、改めて自治会など地縁団体の役割を認識する事が出来、有意義なものとなった。特に事例発表などを拝聴すると、やらされて事業を行うのではなく、住民のニーズを求めて事業を行っていったこと。持ち回りの役員の負担を減らす意味でも、住民有志の実行組織を作って事業などを担当するやり方など取り入れたらいいと思う事例があった。さらには大学や様々な外部団体が自治会へ入り込むことによって活性化する事例や既存の事業の枠を超えた事業を行う事によって若い方など今まであまり関わっていなかった方の参画や参加を募ることが出来た事例など、参考にすべきであると感じた。これを提案に代えたい。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

平成30年1月30日

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名：きずな

報告者：桂藤 和夫

実施場所：平成29年度自治会・町内会講座(国立オリンピック記念青少年総合センター)	実施日：平成30年1月24日(水)
<p>■目的・課題・問題事項(調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など)</p> <p>▽講座① <u>自治会・町内会の課題と求められること</u>〔講師：長谷川幸介さん(茨城県生涯学習・社会教育研究会会長)〕…基調講演</p> <p>▽講座② <u>自治会・町内会活動を活性化させるために</u>〔講師：蟹江将生さん(千葉県千葉市美浜区 幸町1丁目コミュニティ委員会会長)、岡崎広樹さん(埼玉県川口市 芝園団地自治会事務局長)〕…2地区の事例発表</p> <p>▽講座③ <u>自治会・町内会活動の悩み、思いを語ろう</u>〔みんなで質疑応答・意見交換〕</p> <p>・本市は国全体が人口減少社会を迎える中、22自治振興区が各地域で様々な課題を抱えながら懸命に頑張られているが、自治会等の問題・課題(役員のなり手がいない、役員の高齢化など)解決や運営、活動面についてのヒントや取組みについて学びたいと考えた。</p> <p>■参考とすべき事項</p> <p>☆講座①の基調講演で65歳以上が「高齢者」と言われたのは1956年(昭和31年)に当時の厚生省が当時の女性の平均寿命が65歳だったことから決めたもので時代にマッチしなくなっている。夫婦の一方が亡くなって以降のコミュニケーションが取りにくくなるので、老人会は夫婦で加入すべきだということ。</p> <p>☆一人暮らしは問題ではない。一人ぼっちの方が問題であること(講師のお母さまが認知症になられた時、地域の方4~5人が来られお茶を飲んで母を「散歩」に連れて行ってくださっていた。一人だと「徘徊」だけけれども、母は「散歩」という形で支えてもらっていた)。</p> <p>☆人間の「幸せ装置」(=社会)をどういう形で次世代へ伝えていくか？ 市町村の総合計画をバラし整理して考えてみて、幸せのセーフティネットを検証してみること。4つの縁(血縁・地縁・友縁・職縁)がそれぞれ重なった4縁(支援)社会を作る必要があり、様々な問題・課題に立ち向かう長期無限定修正社会を構築していかなければならない。</p> <p>☆市民の幸せを作る会社=市役所であり、幸せネットワーク保険(ネットに綻びが出た場合に網を作るための)も必要ではないかということ。</p>	
<p>■提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきか など)</p> <p>※1. 現在も実行されていると思うが、各担当部署や関係機関等と自治振興区の定期的な協議を重ね課題を早期に見つけ解決することやサポート体制を一層充実させていくことが肝要であると感じた。</p> <p>※2. 市政懇談会を各自治会単位で開催して地域や住民の声をしっかりと受け止めて本市の施策に反映するべきではないかと思う。</p>	